

2025年度第1回学習会を開催しました

2025年8月8日(金)秋田市のイヤタカを本会場に県内全6会場をオンラインで結び、組合員・役職員86名の参加で開催しました。秋田大学大学院教育学研究科教授 外池智氏が「戦後80年継承的アーカイブの現状と教育的活用—秋田県を事例として—」と題し、戦争遺跡の重要性と活用について講演されました。土崎空襲の遺構である被爆倉庫の解体を「戦争遺跡は“百聞は一見にしかず”でその場に行くと説明の言葉は必要ないがその遺構を壊してしまった」と貴重な遺構が失われる現状を危ぶまれました。本県を含む4県で国や自治体指定の戦争遺構の文化財がゼロという現状に「歴史的価値に気付かないまま遺構が失われていく可能性が懸念される」と保存の声を上げる必要性を訴えました。

土崎港被爆市民会議の伊藤津紀子氏による「土崎空襲について」の講演では、当時4歳だった伊藤氏が一夜にして住まいを失い、近所の多くの方が亡くなつたことなどの体験談や、伝え継がれてきた記憶を伝えてくださいました。戦争体験を若い世代に継承していくことの重要さと平和への強い想いを語られました。

「ピースアクション in オキナワ第42回沖縄戦跡・基地めぐり」に参加されたコープあきた組合員 戸田妙子さん・こころさん親子には、戦跡をめぐり学んだ戦争の悲惨さと、平和への想いを報告していただきました。お子さんのこころさんは貴重な体験をマンガにして報告され、参加者から「素直な感情がありのままに表現された素晴らしい報告だった」と感想を頂戴しました。

原爆の惨禍から80年を迎え、平和をテーマとした3つのプログラムを通して過去に起きた戦争の悲惨さと当時の方々の想いを学びました。県生協連ではこの貴重な機会を活かし、平和な世界の実現のため、戦争や核兵器の実相を次世代へと継承していく活動を続けてまいります。

8月23日(土) IYC国際協同組合年 協同組合×SDGsフェスティバルに参加しました



このフェスティバルは、県民の間に協同組合をより身近に知っていただこうと開催されました。県生協連では秋田駅前アゴラ広場でユニセフ募金活動と指定募金先の東ティモール産コーヒー支援販売を行いました。30℃を超える厳しい暑さの中支援を呼びかけ、募金額29,855円にコープあきたのブース売り上げの一部を合算し、日本ユニセフ協会へ送金しました。

県内8団体による「協同組合PRブース」では会員生協のコープあきたが大人も子供も楽しめる輪投げゲームを実施しました。こくみん共済 coop のブースでは、万が一に備えたVRを活用した災害体験や地盤診断サービス等の展示を行い、来場者の防災意識を高めていました。

別会場のANAクラウンプラザホテルではお笑いタレントの小島よしおさんのトークショーが開催され、楽しくわかりやすく協同組合についての理解を深めました。



募金へご参加の皆さん 募金を呼び掛ける大学生の皆さん 輪投げを楽しむ親子連れ 山野内会長理事の挨拶 小島よしおさん

秋田県の協同組合組織はこのフェスティバル以外にもJAグループ提供の地元テレビ局番組への出演や「協同組合の森」植樹行事等を通して協同組合同士の連携を強め、県民の協同組合への認知度アップに取り組んでいます。



16 平和と公正をすべての人々に



外池智教授



伊藤津紀子氏



戸田妙子さん・こころさん親子



オンライン会場で
参加する様子